

## 兵庫県川西市の市立総合病院建設巡り

～ 門前薬局土地利権詐欺話で地上げ屋暗躍の闇 ～

**門前薬局** 大きな病院ともなれば、その付近にズラリ、その病院患者の処方箋を対象とする調剤薬局が軒を連ねる様もいう言葉で、その実態が大きな利権になっていることを窺わせる。

そして、なかでも病院の正面入り口のまさに門前ともなれば、どうせ薬局を出すならそこになって当然。それだけに、その地価が上がることは容易に想像できるだろう。

こんな門前薬局土地利権詐欺話が出ていたのは、

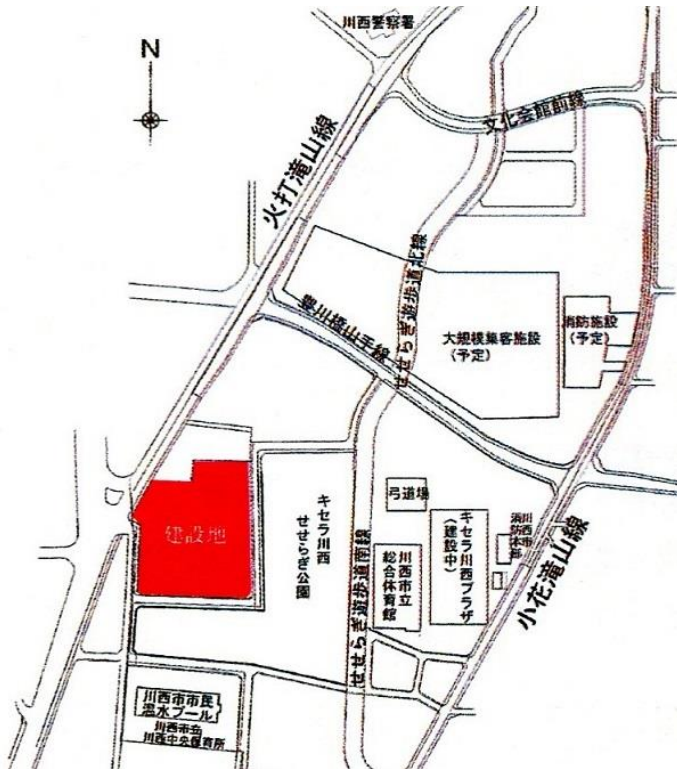
兵庫県川西市の「市立総合医療センター」（仮称）。



大塩民生市長（写真）時代（昨年10月、3期務めて退任）、川西市は市立川西病院（250床。東畦野5丁目）の老朽化による建替えを契機に、火打1丁目に400床の市立総合医療センター設立を計画。すでにこの新病院の運営は市内の医療法人「協和会」が担当すること

が17年11月に決定。ただし移転先の土地購入もまだで、今年4月1日に建設の一般競争入札公告が出たばかり。予定では今年7月下旬に落札者が決定(予定価格は155億9000万円)。21年度の開設を目指す。

(下写真=新病院建設予定地)



そんななか、早くも門前薬局候補地の詐欺利権話でトラブルが発生。すでに告訴され、当局が動いているとの情報もある。

このトラブル案件複数あるようで、当社に寄せられたトラブル案件は2件。

1件はこの門前薬局候補地の土地を地上げ買い占めていた業者が二重売買をしていたというもの。もう1つは地価が3倍になるとして、高齢者に対して、近くの土地を高値で売りつけたというものだ。

本紙がこの件に注目した理由はそれだけではない。

トラブルで訴えられた地上げ業者が門前薬局の土地利権話で動いていたのは実に 2014 年度まで遡る。しかもその土地はすでにこの地上げ業者を経由して、何と新病院の運営が決まっている前出「協和会」が取得しているからだ。

前述のように、協和会が「指定管理者」として大塩市長（当時）から正式に認定を受けたのは 2017 年 11 月 29 日。ところが、地上げ業者 R 社（大阪府中央区）はその 3 年以上前からもう同地に病院が来ることがわかり動いていたわけだ。

しかも、このトラブルを起し、告訴までされている R 社が、門前薬局土地（約 200 坪）も建物も昨年 4 月から 11 月の間に買占め、そのすべてを協和会が昨年 12 月 19 日に購入している。さる事情通はこう解説する。

「R 社が約 200 坪を購入したのは昨年ですが、それは登記上のことで、実際には 14 年 12 月に売買契約が結ばれています（下写真）。



一方、この新病院計画を進めた大塩市長は昨年10月、4期目を目指さず引退しましたが、以前から協和会側との癒着が囁かれていました。そしてR社のM社長は大塩さんと共にこの計画を推進したベテラン元市議Y氏に繋がる人脈とリンクします。だからこそ、そんなに早く門前薬局の地上げで動けたのではないのでしょうか」

さて、具体的なR社のトラブル案件だが、2重売買というのは、約200坪の土地を実際に売った協和会とは別にS社（神戸市東灘区）にも持ちかけ、昨年4月、S社から手付金として1000万円を受け取っている（下写真）事実だ。



「2億円で売の話だったんです。S社はむろん薬局に賃貸して儲けるこの計画で、建物を借りていた介護業者の転居費用なども出し、R社と一緒に事業で儲けようと提案していたが、地上げ屋のR社は差益さえ抜ければと協和会に売ったのでしょ」(関係者)

R社が1000万円をせしめた昨年4月といえば、同社は建物だけでまだ土地はまったく登記上は購入してなかった。このことから、それ以前の14年12月に売買契約が結ばれていたことが窺える。逆にいえば、余りに早く購入すると後で協和会、大塩前市長との癒着が疑われるので登記を遅らせていたということか。

一方の地価が3倍になるとして、近くの土地を高値で売りつけた件は、約200坪の土地とは別の火打2丁目のわずか約1坪の土地。

「R社のM社長は、最初は、この土地が門前薬局の土地の要になるといって、儲かるとして、大阪市天王寺区の女性社長のH社に名義貸しを頼み、最終的には、門前薬局のために約200坪の土地から立ち退いた介護業者が必ず買ってくれると虚偽の事実を告げて2500万円もの価格で売りつけたんです」(同)

しかし、その介護業者に買う必要性がないとH社は拒絶されている。

捜査の行方、そしてこんなR社と協和会、大塩前市長らとの関係が注目される。